

令和5年度第2回幕別町部活動地域移行検討委員会 開催結果

1 開催日時

令和6年2月15日（木）19時00分から20時40分まで

2 開催場所

幕別町百年記念ホール講堂

3 出席者

【委員：全10名】

橋本委員、久保委員、小田委員、稗田委員、高道委員、小松委員、川瀬委員、坂口委員、沖田委員、西山委員

【講演会参加者：55名】※ 詳細は別紙名簿を参照

小学校保護者5名、中学校保護者2名、小学校教職員2名、中学校教職員25名、高校教職員1名、スポーツ団体関係者9名、高校生2名、一般町民2名、町議会議員5名、その他2名（うち1名は名簿未記載）

【教育委員会：7名】

菅野教育長、川瀬教育部長、石田生涯学習課長、酒井学校教育係長、吉田社会体育係長、喜多学校教育推進員、小林

4 傍聴者

十勝毎日新聞社 大海記者

5 内容

幕別町部活動地域移行講演会「部活動改革の経緯とこれから」

（講師：北海道教育大学岩見沢校 キャンパス長 山本 理人 氏）

※ 本講演会は第2回幕別町部活動地域移行検討委員会を兼ねて実施

※ 講師は「部活動の在り方検討支援アドバイザー派遣支援事業」を活用し招聘

※ 講師が作成したスライド（一部抜粋したものは別紙を参照）を用いて、1時間程度講演いただき、30分程度質疑応答の場を設けた。

6 主な質疑応答（○：質疑者：●：講師）

○ 講演の中で経済産業省も地域移行の取組に力を入れているとの話があったが、長い目で見たときに経済産業省との関係はどのようになっていくのか。

● 経済産業省が地域移行の取組に力を入れている根本にある視点はスポーツのビジネス化だと思っている。部活動も含めてになるが、スポーツはボランティアの方が対価を支払わずにこれまで行っているところが多いと思う。スポーツの専門科学を学んだ人が対価なく、人々の健康・体力づくりやスポーツ指導をすることが健全な仕組みでないと考え、改善していきたいというところが大きいと考えている。

○ 先生が考える今後の地域移行への見通し（枠組み）は。

- 経済産業省との関係で民間事業者が参入し、指導者を派遣して、その対価を受益者負担で支払う仕組みをもし幕別町で考えているのであれば、今の段階でやめたほうが良いと思っている。私が提案したいのは、本日の講演会に集まっている意識の高い方が一定の集団となった中で何らかの仕組みを作ってほしいと考えている。民間事業者が参集した場合の最悪のパターンとして、売上がなければ辞めてしまうことにある。学校の教職員や保護者の皆さんも自分事として考えて制度設計し、良い仕組みを検討していただきたいと考えている。
- 指導したい教職員が指導をしなければ、地域移行は進まないと考えているが、フレックスタイム制の導入があれば、指導しやすい環境を構築できていると思っている。このような取組を行っている地域があれば、教えてほしい。
- 自治体名は忘れてしまったが、福島県の自治体でスポーツクラブが中心になって、フレックスタイム制の導入や夏季休業の調整により、就業時間を調整した仕組みを構築している。